



和字
繪入

性生要集

極楽物語

下



養生要巻之下

飲求津去十樂の序

極楽相遊

それ飲求津去とハ一切の元生こもく極楽津去は生とぞんずを
 補ひのそめをゆめと入る猶たこむららの切法を尋成ゆふ百初
 子初として先と後とも後ばくまうび。その教とつけしととるも
 又初るべきやうらび。まうりといふも。群衆満よハ十種の利益と
 安閑の抄よ。下はのよとらせり。後ハ権揚とらる。只人の心あまき
 なる。今あふ十ののりもとらけて。津去をやそあつ。ことへ分の毛
 の先ふて大海の水とぞんずや。一ノ、聖元來運せ。二ノ、八邊花
 初開楽。三ノ、八力相持通楽。四ノ、八身現劣乐。五ノ、使楽を運乐。六
 七ノ、八引接縁乐。七ノ、八聖元來運乐。八ノ、八見江流法乐。九ノ、八法ん佐

仏衆十の八場を仏道示す

才一 聖元來運衆の事

(一) 聖元來運衆の事。其の時、凡そ衆の人の命のほろむる事、
 用火の二ツ。まづさりたる。もと火のその性、うづくひのほろむる物あれば、
 さハグくあつたして、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。
 のほろむる事、たふ地、たふ地、たふ地、たふ地、たふ地、たふ地、たふ地、たふ地、
 かねバ、有件ゆゑ、あつたして、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。
 しくん、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。
 小より、あつたして、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。
 乃が、あつたして、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。
 花より、あつたして、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。

能依とあつたして、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。

へ、其の時、凡そ衆の人の命のほろむる事、用火の二ツ。まづさりたる。もと火のその性、うづくひのほろむる物あれば、

とは、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。

無依とあつたして、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。

け、其の時、凡そ衆の人の命のほろむる事、用火の二ツ。まづさりたる。もと火のその性、うづくひのほろむる物あれば、

乃が、あつたして、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。おむき、まづさりたる。

た、其の時、凡そ衆の人の命のほろむる事、用火の二ツ。まづさりたる。もと火のその性、うづくひのほろむる物あれば、

する、其の時、凡そ衆の人の命のほろむる事、用火の二ツ。まづさりたる。もと火のその性、うづくひのほろむる物あれば、

る、其の時、凡そ衆の人の命のほろむる事、用火の二ツ。まづさりたる。もと火のその性、うづくひのほろむる物あれば、

の、其の時、凡そ衆の人の命のほろむる事、用火の二ツ。まづさりたる。もと火のその性、うづくひのほろむる物あれば、



東方
阿彌陀佛
西方
阿彌陀佛

佛生要集



文八
九
分
法
乐

伴
生
要
集

三
十

此の書は、
 明治三十五年三月五日印刷
 年三月十日發行
 京都府花屋町通西洞院西へ入
 編輯者 永田文昌堂編輯部
 發行兼印刷者 永田榮治郎
 同所
 發行所 永田文昌堂
 振替大阪三〇七八。

不許複製

發行所 永田文昌堂

振替大阪三〇七八。

此の書は、

此の書は、
 明治三十五年三月五日印刷
 年三月十日發行
 京都府花屋町通西洞院西へ入
 編輯者 永田文昌堂編輯部
 發行兼印刷者 永田榮治郎
 同所
 發行所 永田文昌堂
 振替大阪三〇七八。

